

日本語ひろば

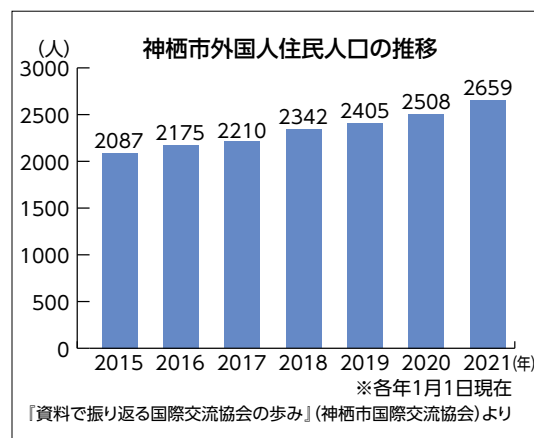
ことばで育む多文化共生

皆さんの外国人が暮らす神栖市。市内4カ所で開催されている「日本語ひろば」では、市民が日本語ボランティアとして活躍しています。互いに理解を深め、より良い関係を築くための取り組みを紹介します。

日本人も外国人も同じ地域の一員

日本にはたくさんの外国人が暮らしており、神栖市内でも会社や学校、お店、公園などで外国人に会うのは珍しいことではなくなりました。市内に住む外国人は2659人(令和3年1月末現在)。国籍で見ると中国、フィリピン、タイ、ベトナムの方が多くなっています。在留資格は、永住者、技能実習、定住者、日本人と結婚した人、技術・人文知識・国際業務に就いている人など多岐にわたります。

来日したばかりで言葉や習慣の違いに戸惑っている人もいれば、すっかり神栖の生活になじんでいる人もいます。そうした中、日本人も外国人



人も同じ地域の一員として安心して暮らすことのできる「多文化共生」のまちづくりが求められています。多文化共生とは、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こう



としながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと(総務省)です。

多文化共生の実現のために

ところで、身近に外国人がいても「話したことがない」「交流するきっかけがない」という人も多いのでは? もし「声をかけたいけれど、何語で話しかければいいかわからない」というときは、簡単な日本語で大丈夫です。日本人と話したいと思っている外国人はたくさんいます。市内ではこれまで、神栖市国際交流協会(KIFA)が長年にわたって

「外国人のための日本語教室」を実施してきました。今年度から市が積極的に関わる体制を整え、「日本語ひろば」として再スタート。引き続き神栖市国際交流協会の皆さんが日本語ボランティアを務めており、重要な担い手であることに変わりはありません。日本語ひろばは市内4カ所・計6クラスがあり、日本語ボランティアが計20人、受講者は計53人います。今後は日本語を教えるだけでなく、多文化共生の拠点としていくことを目指し、神栖市国際交流協会と市が協力し合って運営していきます。

世間話も大切なトレーニング

日本語ひろばを訪ねてみました。受講者の皆さんが、「初めまして、私の名前は〇〇です。よろしくお願います」と折り目正しくあいさつをしてくれます。思わず「日本語が上手ですね」と言うと、「まだまだです」と照れながら笑顔を見せてくれました。

この日は、日本語ボランティアが3人と、受講者が6人。日本語のレベルや国籍(母語)によって担当が割り振られ、中国人とタイ人の受講者はそれぞれ日本語ボラン

ティアと1対1での授業、ネイパール人4人は同じグループでの授業です。「今週、楽しかったことは何?」「家族はみんな元気?」など、なごやかな世間話から始まり、やがて教材を使った学習へと進みます。



①パソコンを使ってクイズ形式で楽しく日本語を学ぶ ②日本語のレベルや国籍(母語)によってグループ分け ③発音を伝えるためにスマートフォンの音声アプリを活用 ④神栖市国際交流協会情報誌「きい〜ふあ」。漢字が読めない外国人のために、ふりがなを付けて情報を発信してきた

